公開授業Ⅱ　６年２組

第６学年国語科学習指導案

児　童　６年２組　男子 16 名　女子 19 名　計 35 名
指導者　中島　祥子

１　単元名　筆者のものの見方をとらえ、作品のよさを紹介しよう
学習材名　中心学習材　『鳥獣戯画』を読む　この絵、わたしはこう見る（光村図書６年）
補助学習材　「直感こども美術館 みてごらん！名画だよ」
（マリー・セリエ 結城昌子訳 西村書店）
「子どものためのアートブック」
（リチャード・シュラッグマン ファイドン株式会社）
「ひらめき美術館 第１～３館」（結城昌子　小学館）
「小学館アートブック１～１２」（結城昌子　小学館）
「新おはなし名画シリーズ　鳥獣戯画」（辻惟雄・西村和子　博雅堂出版）

２　児童と単元について

（1）　児童について

本学級の児童が、１学期に説明的文章の学習において学習した主な読みの方法は次の三つである。付けたい力「目的や意図に応じて要約する」（読むことウ）に関しては、「具体の文と抽象の文に注目して読む」「事実の文と意見の文に注目して読む」という方法、付けたい力「筆者の主張と関連させて自分の考えをもつ力」（読むことウ）に関しては、「自分の経験、知識から考える」という方法である。言語活動は、要約・事例・自分の考えというスピーチの型に当てはめスピーチするという経験をしている。

前単元の説明的文章の学習においては、要約文の型を示したことで、説明的文章や新聞記事を読み自力で要約する力が付いた。また、筆者の主張に対する自分の考えをもつことについても、共感や納得する点を自分の事例と結びつけながら理由を述べてまとめる力も付いてきている。一方、自分の考えや感想を書く場面や国語以外の鑑賞の学習において、よさを伝えたり評価したりする言葉が乏しく、自分が惹かれた点やよさがはっきりしない表現が多いという実態がある。そこで今後は、筆者の書きぶりや読者を納得させる表現の工夫やその効果について重点をおき、実際によさを伝える文章を書く際に活用する力を付けていきたい。

読書については、歴史に関するものや伝記、小説などを手に取る児童が多く、科学的な読み物やノンフィクションの内容のものを読む児童は少ない。本以外では、前単元の学習を経て新聞を読む機会が増えたが、他に「意見を述べた文章や解説の文章など」として雑誌や情報誌、パンフレットなどから意見、論説、解説などの文章があることを紹介していく必要がある。そして、解説や評価を入れた文章において書き手の考えやどのような評価をしているのか等、表現の仕方に着目しながら読むことにつなげていきたい。

本単元では、これらの実態を踏まえ、ものの見方や感じ方を読み手に伝えるための表現の工夫をとらえ、解説や評価を入れた文章を書く力につなげていきたいと考える。

（2）　単元と学習材について

本単元「筆者のものの見方をとらえ、作品のよさを紹介しよう」では、学習指導要領・読むこと指導事項ウに関する「事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読んだりする力」、書くこと指導事項ウ「事実と感想、意見などとを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること」について、絵の解説や評価を入れた文章を書き、自分のものの見方を友達に紹介するという言語活動を行う。

本学習材「『鳥獣戯画』を読む」は、アニメーション映画のプロのものの見方を知ることができるとともに、アニメーションのルーツともいえる「鳥獣戯画」などの絵巻物が伝統文化として深く息づいてきたものであることを知り、日本の伝統文化の深さに触れることができる作品である。また、絵の解説と解釈、評価からなる評論文としての特徴をもち、絵と文章を合わせて読むように書かれている。さらに、文中には、体言止めや語りかけるような表現、感想や評価の言葉等、特徴的な書き方がされており、ものの見方や感じ方を読者に伝えるための筆者の書きぶりの工夫を学ぶことができる学習であるといえる。

（3） 単元指導計画の工夫について

ア　付けたい力と読みの方法　　【付けたい力】　○読みの方法

【筆者の書きぶりに対して自分の考えをもつ】

○表現の工夫とその効果について考えながら読む。 ・書きだし　・体言止め　・感想・評価の言葉

見通す段階では、児童が初めて出会う鑑賞文という文種であることをつかませると共に、筆者がものの見方を伝えるためにどのような表現の工夫をしているかに気付き、見つけていく学習を行う。第１時で、児童が自分で「鳥獣戯画」の１場面の絵を説明する文を書き、本文の１段落の筆者の書きだしの文と比較する。「はっけよい、のこった。」という書きだしの面白さや相撲の技をさも実際にやっているかのような表現など、児童とは違う観点で表現していることに気付かせていく。また、人それぞれに感じ方やとらえ方は違うことで、絵から想像することの楽しさや絵そのものの楽しさについて味わうこと、それが題名の「絵を読む」ということであることをつかませていきたい。第２時では、全文を読み、書きだしの工夫以外にもものの見方を伝える表現の工夫はないかを探していく。その中でも文末表現や話しかけるような表現、感想・評価の言葉に着目させていく。第３時において、大きく３つの観点（書きだしの工夫、体言止め、感想・評価の言葉）に分類し、深める段階以降の表現の効果を考える学習につなげていくようにする。そして、これからの学習では、高畑さんの文章で学んだ、ものの見方を伝えるための表現の工夫を用いて、絵の解説や評価を入れた文を書く言語活動を行うことへの見通しと意欲をもたせるようにしていく。

深める段階では、ものの見方やよさを伝えるための表現の工夫の３点についてその効果を考えていく。まず、第４時では、書きだしの工夫と体言止めの効果の２点について考えていく。１点目の書きだしについては、「はっけよい、のこった。」という実況中継のような言葉から始まり、体言止めや「なんと」「おっと」などの話し言葉風の表現、ダッシュなど続きを読みたくなるような筆者の読み手を引きつける巧みな表現が使われていることに気付かせていく。２点目の体言止めについては、文末を「…だ。」「…である。」とせずに、「返し技。」「かわず掛け。」とした表現からリズム感が感じられることなどの効果についても考えさせていく。以上２点の効果から筆者と一緒に絵を見ているような感覚になる臨場感あふれる表現であることもとらえさせたい。第５時では、表現の工夫３点目として感想・評価の言葉の効果について考えていく。筆者が述べている感想や評価の言葉の中から「のびのびと見事な…」「すばらしい」「すてきで」「たいしたものだ。」等の表現以外にも、「…にちがいない。」「…だろう。」「…なのだ。」という言い切っている文末表現から筆者の強い感情が表れていることにも気付かせる。また、「実に…」「なんと…」「これほど…ない」など評価を強調している表現も押さえていく。この際に「読み取ったことや感じたことを表す表現」(P144)や巻末の「評価・判断や、感情を表す言葉」を紹介し、様々な感想・評価の言葉があることにも気付かせていく。同時に「感想・評価の言葉集」として書きためていき、解説や評価を入れた文を書く際に活用し、評価の言葉の語彙を増やしていきたい。筆者の表現の工夫を読み取った後、第６・７時で「風神雷神図屏風」で解説や評価を入れた文を書く活動を行う。初めにモデル文の要素を確認し、３点の表現の工夫を入れて書くようにする。１段落目には書きだしの工夫をして作品の概要を書き、２段落目は読み取った事実とその感想を評価の言葉を入れて書く。３段落目には、自分は絵をどう読んだかが分かるように自分の考えを断定する言い方でまとめて書くこととする。

広める段階では、中心学習材で学んだ筆者の表現の工夫を入れて、自分が選んだ絵について解説や評価を入れた文を書いていく。第 10 時で完成した文について友達同士で読み合い交流する。読み合う際は、表現の工夫の３点が入っているかを観点とし相互評価していく。補助学習材は、見通す段階に紹介し、絵画作品に触れ興味をもたせることや解説文を読む機会を設けることに活用していく。また、一つ一つの絵についている解説には、書きだしの工夫や感想・評価の言葉等盛り込まれているので、解説や評価を入れた文を書く際の参考としても役立てていきたい。

イ　言語活動

「事物のよさを伝える文章を書くこと」
様式：解説や評価を入れた文　「黒西美術館をひらこう！」
字数：４００字程度
要素：作品名、画家名、書きだし（概要）、解説、まとめ（自分の考え）
目的：絵に対する自分の見方や感じたよさについて友達に伝える。
相手：同じ学年の友達

広める段階で、好きな絵を選択し学んだことを生かして解説や評価をいれた文を書く活動を行う。絵は、補助学習材の絵画作品や絵巻物、P142 の絵等から選択するものとする。完成した文は、初めに同じ絵を選択した人同士で読み合い、お互いのものの見方や表現の仕方の違いについて交流していく。更に完成した文と絵画作品を掲示し、ものの見方を広めることにもつなげたい。

ウ　見通す場と振り返りの場

単元を見通す段階で、「筆者のものの見方をとらえ、作品のよさを紹介しよう」という単元名を示す。児童には、どのような力を付けたいのか（ものの見方や感じ方を伝えるための表現の工夫をおさえながら読むこと）、ゴールとなる言語活動は何か（絵の解説や評価を入れた文）を説明する。さらに、ゴールでの目指す姿（ものの見方や感じ方を伝えるための表現の工夫を入れて事物のよさを伝える文章を書き、様々な学習でも生かそう）についても説明する。その上で、ゴールに迫るための道筋を単元の学習計画として示す。具体的な学習活動としては、絵を説明する文を書き、筆者の書き方と比較すること、学習計画を立てること、モデル文の紹介によってゴールとなる絵の解説や評価を入れた文のイメージをもつことの学習を行う。

学習の振り返りは、まとめる段階で行う。単元全体を通して学習したことを振り返り、文章にまとめる活動を行う。書かせる項目は、ものの見方を伝えるための表現の工夫について・絵の解説や評価を入れた文を書くことについて・自分と友達のものの見方（表現）の違いやよさについてとする。この活動を通して、自分が学習したことを自覚させ、生きた力として身に付けさせていきたい。さらに、自分が書いた絵の解説や評価を入れた文についての添書を書く。観点は、表現の工夫の３点についてとする。推敲をし自分の文章への振り返りも行わせる。自己評価を行い、それについて交流の場を設けることで相互評価も取り入れる。

３　単元の目標と評価規準

	単元の目標	評価規準
国語への 関心・意欲・態度	○絵を見て、自分なりに絵から読み取ったことやよさを伝えようとすることができる。	・絵を見て、自分なりに絵から読み取ったことやよさを伝えようとしている。
読む能力	◎解説文を書くという目的に応じて、筆者のものの見方が伝わる表現の工夫に着目し読むことができる。	・ものの見方をとらえるために筆者の表現の工夫とその効果について考えながら読んでいる。〈ウ〉
書く能力	○絵から読み取ったことや感じたこと、よさについて簡単に書いたり詳しく書いたりすることができる。	・絵のよさを伝えるために効果的な表現を入れて解説や評価を入れた文を書いている。〈ウ〉
言語についての 知識・理解・技能	○文章の中での語句と語句との関係を理解することができる。	・説明的文章を特徴付ける語句や文末表現などに着目して読み、その効果を理解している。〈イ(ｵ)〉

4　単元の指導計画と評価規準（全11時間）

段階	時	学習活動	国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能	補助学習材
見通す	1 **本時**	「鳥獣戯画」の一場面の絵を見て絵を説明する文を書き、筆者の書きだしの文と比較し違いを考える。題名から絵を読むということについて考える。単元名、学習計画を知り、これからの学習に見通しをもつ。	自分が書いた文と筆者の書きだしの文を比較し違いを考えようとしている。単元名や目的意識、相手意識、学習の見通しをとらえている。 （観察・シート）			「見てごらん！名画だよ」 「ひらめき美術館第１～３館」 「子どものためのアートブック」 「小学館アートブック１～１２」
	2	全文を読み、筆者のものの見方を伝えるための表現の工夫を見つける。 新出漢字や難語句を調べる。	全文を読み、筆者のものの見方を伝えるための表現の工夫を見つけようとしている。 （観察・シート）		分からない語句について、辞書を利用して調べている。 （観察）	
	3	筆者のものの見方を伝えるための表現の工夫について分類する。 解説や評価を入れた文のモデルを紹介する。		筆者の表現の工夫を書きだし、文末表現、感想・評価の言葉に分類している。 （観察・シート）	文末表現などの語句に着目してその効果について理解している。（シート）	
深める	**4**	筆者のものの見方を伝えるための表現の工夫（書きだし、体言止め）の効果について読み取る。		書きだしや体言止めの表現の工夫の効果についてとらえている。 （観察・シート）		
	5	筆者のものの見方を伝えるための表現の工夫（感想・評価の言葉）の効果について読み取る。		感想・評価の言葉の表現の工夫の効果についてとらえている。 （観察・シート）		
	6・7	モデル文の要素を知る。「風神雷神図屏風」の絵の解説と評価を入れた文を書く。	モデル文を基に絵のよさが伝わる表現の工夫を入れて書こうとしている。 （観察・シート）	解説や評価を入れた文の文章構成や要素をとらえている。 （観察・シート） 書く能力 表現の工夫を入れて解説と評価を入れた文を書いている。（シート）		
広める	8・9	「この絵、わたしはこう見る」を読み、いろいろな記述例があることを知る。 自分が選んだ絵について解説や評価を入れた文を書く。 添書を書く。	表現の工夫を入れて、解説や評価を入れた文を書こうとしている。 （観察・シート）	書く能力 表現の工夫を入れて、解説や評価を入れた文を書いている。 （シート）	文末表現などの語句に着目してその効果について理解している。（シート）	自分で選んだ絵画作品
	10	清書をする。 完成した文を読み合い、絵の見方や表現の仕方について交流する。		ものの見方や表現の工夫の違いを考えながら解説や評価を入れた文を読んでいる。 （観察・シート）		
ま	11	単元の振り返りをする。	学習を振り返り、			

とめる		学年の友達に読んでもらい、学習の成果を確かめる。	成果や課題を確かめ、ものの見方を効果的に伝える解説や評価を入れた文の書き方について振り返っている。　（シート）			

5　本時の指導（ 1／11 ）

（1）本時の目標

筆者が書いた書きだしの文や題名の意味について考え、これからの学習について関心をもつことができる。

（2）本時の評価の観点と具体の評価規準

評価規準 ＼ 観点	A十分満足できる	Bおおむね満足できる	C努力を要する児童への 手立て
国語への関心・意欲・態度	Bに加えて 違いを多く見つけて書いている。書きだしの工夫を意識してこれからの学習について関心をもったことについて書いている。 例）わたしが書いた文は、「…です。」「…ます。」のように表したけれど、高畑さんの文は「返し技。」というような文末で書いている。わたしは、「うさぎとさるが…しています。」のような書きだしだけれど、高畑さんは「はっけよい、のこった。」のように工夫している。最後にダッシュを使って続くように書いている。 わたしは、高畑さんの書きだしのように、会話や音の言葉で書き始めたり、体言止めやダッシュを使ったりするなど、工夫をして絵を解説する文を書いてみたい。	自分が書いた文と高畑さんの書きだしの文を比べて、違いを考えるとともに、これからの学習に関心をもったことについて書いている。 例）わたしが書いた文は、「…です。」「…ます。」のよう表したけれど、高畑さんの文は「返し技。」というような文末で書いている。「はっけよい、のこった。」という書きだしから始まっている。 わたしは、絵を見て、高畑さんのように、書きだしの工夫をするなどして解説の文を書いてみたい。	ペアや全体での話し合いを基に自分の考えを書くよう助言する。教師との対話により、考えを引き出すようにする。

（3）展開

段階	学習活動 ○発問・期待する児童の反応	教師の支援 学習内容　◎評価　・留意事項
見通す	1　本時の学習を知る。 （1）絵を見て説明する文を書き、筆者の書きだしの文と比較する。 ○ここに１枚の絵があります。この絵について友達に説明する文を書いてみましょう。 ○この文は、高畑勲（たかはたいさお）さんという人が書いた、この絵を説明した文です。読んでみましょう。 ○自分が書いた文と比べて違うところはどこですか。	・『鳥獣戯画』の１枚目の絵を提示する。 ・説明する文は、２００字程度とする。 ・本文の書きだし部分（１段落）を提示する。 ・気付いた所にチェックさせる。
15分	2　学習課題を確認する。 高畑さんのものの見方をさぐろう。	・どういう見方をしたら、このような書きだしになるかということを押さえる。
	3　課題に対する自分の考えをもつ。	

深める	（1）書きだしの文の表現のよさを考える。 ○自分が書いた文と高畑さんの書きだしの文を比べて気付いたことを書きましょう。 ・自分の文は、「です。」「ます。」という文末表現を使っているが、「返し技。」のように止めている。 ・「はっけよい、のこった。」という出だしがおもしろい。 ・―（ダッシュ）を使っている。 ・ぼくは、兎と蛙がけんかしていると見たけれど、高畑さんは、相撲をとっているととらえている。 ・絵と合っている。 ○ペアで交流する。 ○全体で交流する。	・書き始めや表現の仕方にどんな違いがあるか考えさせる。 ・違いから、筆者の文の表現のよさについてつなげていくようにする。 ・文末表現（体言止め）や会話風なところ、擬態語、ダッシュで終わっているところなどに着目させる。 ・表現の工夫以外にものの見方（内容）を挙げている場合も認め、（2）で考えていくようにする。 書きだしの文の表現に気付くこと
	（2）題名について考える。 ○この絵は『鳥獣戯画』という絵巻物の一部です。この絵巻物を見て、気が付くことはありますか。 ・字や文がない。 ○つまり、高畑さんが書いたこの文は、絵を見て想像して書いたものです。だから、相撲ととらえてもいいし、けんかととらえてもいいのです。絵から想像して書くから、一人一人とらえ方が違って、読んでみると楽しいですよね。 ○この文の題名は「『鳥獣戯画』を読む」といいます。普通、絵は「見る」ですが、なぜ筆者は「読む」という題名にしたのか考えながら、本文を聞きましょう。 ○なぜ筆者は「見る」ではなく、「読む」という題名にしたのでしょう。 ・「見る」だと、きれいなどの感想だけである。 ・「読む」だと、筆者がどう見たか、どう解釈したか、感じ方を書いている。 ・絵から想像したことを書いている。 ○これからの学習では、絵の解説や評価を入れた文を書く活動を行います。「『鳥獣戯画』を読む」の高畑さんの表現の工夫をまねして書いていきます。 単元名は、「筆者のものの見方をとらえ、作品のよさを紹介しよう」です。 最後の広める段階では、自分で選んだ絵について解説や評価を入れた文を書いて、「黒西美術館」をひらき、学年の友達に紹介します。 4　自分の考えをまとめる。 ○これからの学習に対し、関心をもったことやがんばりたいことについて書きましょう。	・絵巻物のイメージをもたせるために、絵巻物のサンプルを開いて見せる。 ・筆者の高畑勲さんについてアニメーションの監督であることや代表作品などについて説明し、関心をもたせる。 ・今回学習するのは、絵の「鑑賞文」という初めての文種であることを伝える。 ・全文をＣＤで聞かせる。 ・「見る」と比較させることで、題名を「読む」としたことの理由を考えさせる。 ・始めにペアで話し合い、その後全体で交流していく。 題名の意味を考えること ・単元名と単元計画を示し、言語活動には、絵の解説や評価を入れた文を書くこと、相手は同じ学年の友達であることを伝え、これからの学習の見通しをもたせる。 ・これからの学習は、様々な場面で役立っていくことを伝える。 ・補助学習材を見せ、絵の解説文を読んでこの中から作品を選ぶことや文の参考にすることを伝える。 ◎筆者の書きだしの工夫や題名の意味について考え、これからの学習に関心をもつことができたか。（発言・シート）
25分		
まとめ	5　学習について振り返る。 ○今日の学習の感想をまとめましょう。	・課題とまとめの確認をする。本時の学習とめあてのつながりを確認する。

る 5分	6　次時の予告をする。	・次時は、筆者のものの見方を伝えるための表現の工夫を見つける学習であることを知らせる。

（4）板書計画

『鳥獣戯画』を読む　高畑　勲

課　高畑さんのものの見方をさぐろう。

鳥獣戯画の絵

はっけよい、のこった。秋草の咲き乱れる野で、蛙と兎が相撲をとっている。蛙が外掛け、すかさず兎は足をからめて返し技。その名はなんと、かわず掛け。おっと、蛙が兎の耳をがぶりとかんだ。この反則技に、たまらず兎は顔をそむけ、ひるんだところを蛙が―。

・「です。」「ます。」という文末表現ではなく、「返し技・」という表現である。体言止め

・出だしがおもしろい。

・―（ダッシュ）

・相撲ととらえている。

・絵と合っている。

『鳥獣戯画』を読む→見る　感想だけ・きれい

・どう見たか

・どう解釈したか

・見た人が感じたこと

・絵から想像したこと

絵巻物

単元名　筆者のものの見方をとらえ、作品のよさを紹介しよう

学習計画

○これからの学習について、関心をもったこと・がんばりたいこと

本単元の学習指導一覧表

単元名　筆者のものの見方をとらえ、作品のよさを紹介しよう　　中心学習材『鳥獣戯画』を読む
この絵、わたしはこう見る

目標：解説文を書くという目的に応じて、筆者のものの見方が伝わる表現の工夫に着目し読むことができる。

＜読むこと ウ＞

段　階	主な学習活動	主な評価	○読みの方法 ・補助学習材
見通す 単元全体のめあてをつかみ、学習計画を知る。 表現の工夫を見つける。	①（本時）「鳥獣戯画」の一場面の絵を見て、絵を説明する文を書き、筆者の書きだしの文と比較し違いを考える。題名から絵を読むということについて考える。単元名、単元計画を知り、これからの学習の見通しをもつ。 ②全文を読み、筆者のものの見方を伝えるための表現の工夫を見つける。 新出漢字や難語句を調べる。 ③筆者のものの見方を伝えるための表現の工夫について分類する。解説や評価を入れた文のモデルを紹介する。	①自分が書いた文章と筆者の文章を比較し、違いを考えようとしている。単元名や目的意識、相手意識をとらえ、学習の見通しをとらえている。（関：観察・シート）。 ②全文を読み、筆者のものの見方を伝えるための表現の工夫を見つけようとしている。（関：観察・シート） ③筆者の表現の工夫を、書きだし、文末表現、感想・評価の言葉に分類している。（読：観察・シート）	○書きだし ○文末表現 ○体言止め ○感想・評価の言葉 ・「直感こども美術館 みてごらん！名画だよ」 ・「子どものためのアートブック」 ・「ひらめき美術館 第１～３館」 ・「小学館アートブック」 ・「新おはなし名画シリーズ　鳥獣戯画」
深める ものの見方を伝えるための表現の工夫の効果について読み取る。	④筆者のものの見方を伝えるための表現の工夫（書きだし、体言止め）の効果について読み取る。 ⑤筆者のものの見方を伝えるための表現の工夫（感想・評価の言葉）の効果について読み取る。 ⑥⑦モデル文の要素を知る。 「風神雷神図屏風」の絵の解説と評価を入れた文を書く。	④書きだしや体言止めの表現の効果についてとらえている。（読：観察・シート） ⑤感想・評価の言葉の表現の効果についてとらえている。（読：観察・シート） ⑥⑦解説や評価を入れた文の構成や要素をとらえている。（読：発表・シート） 表現の工夫を入れて解説と評価を入れた文を書いている。（書：シート）	○書きだし ○体言止め ○感想・評価の言葉 ○文末表現 ○文章構成
広める 学んだことを生かし、解説と評価を入れた文を書く。	⑧⑨「この絵、わたしはこう見る」を読み、いろいろな記述例があることを知る。 自分が選んだ絵について解説や評価を入れた文を書く。添書を書く。 ⑩清書をする。 完成した文を読み合い、絵の見方や表現の仕方について交流する。	⑧⑨表現の工夫を入れて、解説や評価を入れた文を書いている。（書：シート） ⑩ものの見方や表現の工夫の違いを考えながら、解説や評価を入れた文を読み、交流している。（読：観察・シート）	○文章構成 ○書きだし ○体言止め ○感想・評価の言葉 ○文末表現
まとめる 学習の振り返りをする。	⑪単元の振り返りをする。 解説や評価を入れた文を学年の友達に読んでもらい、学習の成果を確かめる。	⑪学習の成果や課題を確かめ、ものの見方を効果的に伝える解説や評価を入れた文の書き方について振り返っている。（関：シート）	

ゴールに据える言語活動

【言語活動】事物のよさを伝える文章を書くこと 【様式】解説や評価を入れた文 「黒西美術館をひらこう！」
【言語能力】絵に対する自分の見方や感じたよさについて解説や評価を入れた文を書く。同じ学年の友達に紹介する。
【要素】作品名、画家名、書きだし（概要）、解説、まとめ（自分の考え）　400字程度